

■ 感染症一覧表

病名	潜伏期	病原体	前駆症状	症状の特徴及び経過	感染しやすい期間	感染経路(病原体の所在)	登園停止期間	登園許可証	その他注意事項
麻疹 (はしか)	10日～11日	麻疹ウイルス	3～4日間の発熱咳、鼻水、くしゃみ、目やに。結膜炎をおこすこともある	発疹出現前、頬の内側に粟粒大の白い斑点(コプリック斑)が見られる 発疹は淡紅色で、首から全身へ広がる	発疹出現前後5日位	飛沫感染(鼻喉) 接触感染(目やに)	解熱後3日を経過する迄	必要	肺炎、中耳炎、脳炎などの合併症に注意
水痘 (水ぼうそう)	2～3週間	水痘ウイルス	発疹37℃～38℃の発熱。発疹の先に水疱を形成し、かゆみを伴う	発疹→水疱→かさぶた。種々の時期の発疹が混在 水疱は、頭の中や口腔内にもできる	発疹ができる1～2日前から、かさぶたになる間	飛沫感染(鼻喉) 接触感染(水疱液)	全ての発疹が、かさぶたになる迄	必要	かゆみがあるので、爪を短く切っておく ウイルスが神経節に入り体調を崩すと、 帯状疱疹 となり、 その際も登園許可書が必要
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	2～3週間	ムンプスウイルス	発熱、頭痛、嘔吐、食欲不振などの症状があったりする	耳下腺が腫れる(片側だけの場合もある) 腫れは痛みを伴い、3～7日位続く	耳下腺の腫れる1週間～腫れ後9日位迄	飛沫感染(唾液喉) 接触感染(分泌物)	耳下腺・顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後、5日を経過し、全身状態が良好になるまで	必要	時に、髄膜炎を合併することがある。思春期以降では、睾丸炎、卵巣炎に注意
風疹 (三日ばしか)	2～3週間		発熱(38℃位)と共に、発疹ができる(発熱しない時期もある)	桃色の発疹(細かい)が顔首腹部に出始め、全身に出現し3～4日位で消える 耳の後ろ、首のリンパ腺が腫れる	発疹出現前後7日	飛沫感染(鼻喉)	発疹が消える迄	必要	妊婦は、要注意(妊娠初期に感染すると、先天性風疹症候群になることがある)
百日咳	1～2週間	百日咳菌	風邪症状(咳鼻水くしゃみ)	3～4週間後、ヒューヒューと特有の咳が夜間ひどい	感染後17～20日位	飛沫感染(鼻痰喉) 接触感染(分泌物)	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	必要	肺炎、髄膜炎、中耳炎に注意 特に、乳児は重症になりやすい
咽頭結膜熱 (プール熱)	5～7日	アデノウイルス3・4・7・11型等	突然39℃前後の発熱	咽頭痛、眼の充血、目やに、リンパ腺が腫れる	症状や排菌がある期間	飛沫感染(咽頭から2週間排菌)、経口感染(便から4週間排菌)、接触感染(目やに)	主要症状消失後2日を経過する迄	必要	水、物、手指を介してもうつる 夏かぜの1つ
溶連菌感染症	2～7日	溶血性連鎖球菌	突然の高熱(39℃)のあと、全身に発疹(細かく赤い)	喉が赤く、痛みがあり、舌も赤くなる(莓舌) 口の周囲に、発疹はあまり見られない 1週間位で皮膚がむけてくる	咽頭に菌のいる間	飛沫感染(鼻喉)	主要症状が消失する迄	必要	回復期に急性腎炎、リウマチ熱に注意 決められた期間、抗菌薬を飲み続ける
インフルエンザ	1～3日	インフルエンザウイルスA(ソ連・香港・H1N1)B型	突然の発熱(寒気と高熱)39℃～40℃	咳、咽頭痛、頭痛、関節痛、倦怠感などの全身症状	熱がある間	飛沫感染(鼻喉) 接触感染(分泌物)	発症後5日を経過し、且つ解熱後3日を経過する迄	必要	熱性けいれん・脳症・中耳炎・肺炎・気管支炎などに注意
流行性角結膜炎 (はやり目)	5～7日	アデノウイルス8・19・37型など	目がごろごろして痛がゆい	眼の充血、目やに、涙目	発病後、2～3週間(特に1週間は感染力が強い)	接触感染(目やに) プール感染	主要症状が消失する迄	必要	手指をこまめに洗い、タオル、洗面器などは個別にする プールは医師の許可がある迄止める
急性出血性結膜炎 (アポロ病)	1～2日	エンテロウイルス70型		激しい目の痛み、異物感、まぶたの腫れ、眼のむくみ、まぶしさ、充血、結膜下出血をおこす。	発症後4～5日	接触感染(目やに) プール感染	主要症状が消失する迄	必要	手指をこまめに洗い、タオル、洗面器などは個別にする プールは医師の許可がある迄止める
ヘルパンギーナ	2～6日	コクサッキーA群ウイルス	突然の高熱(39℃前後)	のどに小水疱がポツポツでき、後に小さな潰瘍を作る	発症後、唾液から1週間、便から数週間	飛沫感染(鼻) 経口感染(便から2週間排菌)	症状が回復する迄	なし	脱水に気をつける のどの痛みで食欲がなくなる 夏～初秋に流行る
手足口病	2～5日	コクサッキーA16ウイルス、エンテロウイルス71型	口内、手のひら、足の裏、臀部、膝、肘に小さい水疱	口の中は白い潰瘍状の斑点ができ、痛みがありよだれを伴う かゆみを伴うこともある	発症後、2～3週間(特に1週間は感染力が強い)	飛沫感染(鼻) 接触感染(水疱液) 経口感染(便より13日は排菌あり)	症状により医師の指示による	なし	夏かぜの1つ 口内炎で食欲がなくなるので、口当たりが良く消化の良いものを与える
伝染性紅斑 (りんご病)	7～18日	ヒトパルボウイルス	軽い風邪症状	両頬に、鮮やかな赤色の、やや盛り上がった紅斑ができる 口のまわりには出ない 左右対称の紅斑	発疹出現1週間前		発疹が出た時は、感染力は弱いと言われている 症状により医師の指示による	なし	上肢、大腿部にも、レース模様の紅斑が出る じんましん、アレルギーと間違われる事がある
伝染性膿痂疹 (とびひ)	2～6日	黄色ブドウ球菌、連鎖球菌	皮膚が赤くなり、次第に米粒大の水疱になり、段々大きくなる	水疱は薄くやぶれやすくジクジクする 膿疱やかさぶたができ、かゆみが強い 滲出液から皮膚に次々とびひする	ジクジクしたおでき、膿の出る間、かさぶたにも感染力が残っている	接触感染(膿疱中の膿)	症状により医師の指示による 広範囲の場合は休園 登園する時は、必ず患部をガーゼで覆う	なし	かきこわさないように、爪を短く切っておく 急性腎炎に注意 きちんと治療しないと、完治しない
突発性発疹	5～15日	ヒトヘルペスウイルス6型・7型	突然39～40℃の高熱が、3～4日間続く	熱が下がると共に、小さな発疹が全身にできる 4～5日のうちに、自然に治る 下痢を伴うことがある。	発症時～発疹のある間	飛沫感染(鼻喉)	症状により医師の指示による	なし	熱性けいれん・肝炎などに注意 予後良好
マイコプラズマ肺炎	2～3週間	マイコプラズマ(微生物)	発熱、咳などの風邪様の症状で始まる	発疹を伴うこともある 微熱が続く、咳が激しくなり、数週間続く 家族内感染あり	症状が強い急性期	飛沫感染(鼻喉)	症状がなくなる迄	なし	時に髄膜炎を併発
伝染性軟属腫 (水いぼ)	2～6週間	ポックスウイルス		粟粒大から1cm位迄の色々な大きさ、形をしていて、中央にくぼみがあり、ろうのような艶があり、痒みを伴う 体のどこにでもでき、引掻いたりつづすと、ウイルスが出て感染する アトピー性皮膚炎児は、感染しやすい(掻き傷などから感染しやすい)		接触感染(水疱内の液)		なし	皮膚が露出し、接触しやすい夏に感染しやすい プールは治癒するまで禁止
ウイルス性胃腸炎 (流行性嘔吐下痢症)	1～3日	ロタ・ノロ・アデノウイルスなど	突然の嘔吐・下痢から始まる	嘔吐や下痢の症状が1日に何度もある 下痢は酸味の強い白色調である事が多い 熱は、あったりなかったりする	症状のある時期は、嘔吐物や便からウイルスが排出される	経口・接触感染 食品媒介感染	症状が治まり、普段の食事ができるようになるまで 医師が感染のおそれがないと認めるまで	なし	脱水症状に注意 吐物や便の処理を介して感染しやすい為、手洗いはしっかり行う 処理方法に十分注意する 集団発生しやすい
髄膜炎菌性髄膜炎	2～10日	髄膜炎菌		菌が気道粘膜から侵入し、血中・髄液まで入り髄膜炎を起こす 発熱・頭痛・けいれん・意識障害等の症状が出現 劇症型ショック・多臓器不全になることがあり、救命に処置が必要	症状のある時期	飛沫感染(くしゃみ・咳)	医師が感染のおそれがないと認めるまで	必要	患者との濃厚者は(家族等)抗菌薬の予防内服をする